

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-289346

(43) 公開日 平成11年(1999)10月19日

(51) Int.Cl. <sup>4</sup>	識別記号	P I	
H 0 4 L 12/54		H 0 4 L 11/20	1 0 1 B
12/58		G 0 6 F 13/00	3 5 1 G
G 0 6 F 13/00	3 5 1	H 0 4 M 3/42	Q
H 0 4 M 3/42		11/00	3 0 3
11/00	3 0 3		

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平10-89932

(22) 出願日 平成10年(1998)4月2日

(71) 出願人 000005821

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

(72) 発明者 越ヶ江 秀樹

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器  
産業株式会社内

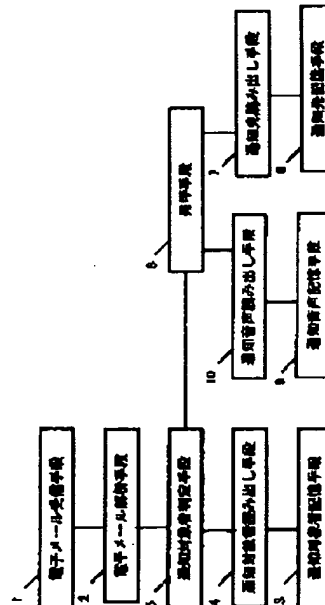
(74) 代理人 弁理士 滝本 智之 (外1名)

(54) 【発明の名称】 端末装置

(57) 【要約】

【課題】 通知対象者からの電子メールが受信された場合にのみ、電子メールを受信したことを通知することが可能となることを目的とする。

【解決手段】 電子メールを受信する電子メール受信手段1と、前記電子メール受信手段1により受信したメールを解析する電子メール解析手段2と、通知対象者を記憶する通知対象者記憶手段3と、前記電子メール解析手段2で解析された結果が前記通知対象者記憶手段3に記憶されているかどうか判定を行う通知対象者判定手段5と、ユーザの携帯電話等の通知先を記憶する通知先記憶手段6と、前記電子メール受信手段1によって受信されたメールが、前記通知対象者判定手段5によって通知対象者からのメールであると判断された場合に、前記通知先記憶手段6に記憶されている通知先に発呼する発呼手段8を有する。



(2)

特開平11-289346

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】電子メールを受信する電子メール受信手段と、前記電子メール受信手段により受信したメールを解析する電子メール解析手段と、通知対象者を記憶する通知対象者記憶手段と、前記通知対象者記憶手段より通知対象者を読み出す通知対象者読出し手段と、前記電子メール解析手段で解析された結果が前記通知対象者記憶手段に記憶されているかどうか判定を行う通知対象者判定手段と、通知先を記憶する通知先記憶手段と、前記通知先記憶手段に記憶されている通知先を読み出す通知先読出し手段と、前記電子メール受信手段によって受信されたメールが、前記通知対象者判定手段によって通知対象者からのメールであると判断された場合に、前記通知先記憶手段に記憶されている通知先に発呼する発呼手段と、発呼した際にユーザに対して通知する音声記憶する通知音声記憶手段と、前記通知音声記憶手段に記憶されている音声を読み出す通知音声読出し手段とを有することを特徴とする端末装置。

【請求項2】電子メールを受信する電子メール受信手段と、前記電子メール受信手段により受信したメールを解析する電子メール解析手段と、通知対象者を記憶する通知対象者記憶手段と、前記通知対象者記憶手段より通知対象者を読み出す通知対象者読出し手段と、前記電子メール解析手段で解析された結果が前記通知対象者記憶手段に記憶されているかどうか判定を行う通知対象者判定手段と、通知先を記憶する通知先記憶手段と、前記通知先記憶手段に記憶されている通知先を読み出す通知先読出し手段と、前記電子メール受信手段によって受信されたメールが、前記通知対象者判定手段によって通知対象者からのメールであると判断された場合に、前記通知先記憶手段に記憶されている通知先に発呼する発呼手段と、発呼した際にユーザに対して前記電子メール受信手段が受信した電子メールの情報を音声合成して出力する音声合成手段とを有することを特徴とする端末装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、電子メールなどを受信可能な端末装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】現在、市場を賑わせているパーソナルコンピュータや携帯情報端末装置には、電話やファクス等の通信機能が備わっているものが多い。逆に、電話等の端末装置には、電話としての機能だけでなく、通信機能を利用してインターネット上の情報をWorld Wide Webブラウザを用いて閲覧したり、電子メールのやり取りが可能なものまで存在している。

【0003】そのような端末装置において、電子メールを受信した場合、予めユーザによって設定された通知先に発呼して、電子メールを受信したことを通知する機能を有するものがあるが、通知する必要のない相手からの

2

電子メールが届いた場合でも通知していた。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】このような端末装置では、通知して欲しい相手からの電子メールが受信された場合にのみ、ユーザに対して通知する手段が必要とされている。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明の端末装置は、電子メールを受信する電子メール受信手段と、電子メール受信手段により受信したメールを解析する電子メール解析手段と、ユーザが通知して欲しい人（通知対象者）からのメールを受信した場合にのみ通知するようにするため、通知対象者を記憶する通知対象者記憶手段と、通知対象者記憶手段より通知対象者を読み出す通知対象者読出し手段と、電子メール解析手段で解析された結果が通知対象者記憶手段に記憶されているかどうか判定を行う通知対象者判定手段と、ユーザの携帯電話等の通知先を記憶する通知先記憶手段と、通知先記憶手段に記憶されている通知先を読み出す通知先読出し手段と、電子メール受信手段によって受信されたメールが、通知対象者判定手段によって通知対象者からのメールであると判断された場合に、通知先記憶手段に記憶されている通知先に発呼する発呼手段と、発呼した際にユーザに対して通知する音声記憶する通知音声記憶手段と、通知音声記憶手段に記憶されている音声を読み出す通知音声読出し手段とを有する。

【0006】

【発明の実施の形態】本発明の請求項に記載の発明は、電子メールを受信する電子メール受信手段と、前記電子メール受信手段により受信したメールを解析する電子メール解析手段と、ユーザが通知して欲しい人（通知対象者）からのメールを受信した場合にのみ通知するようにするため、通知対象者を記憶する通知対象者記憶手段と、前記通知対象者記憶手段より通知対象者を読み出す通知対象者読出し手段と、前記電子メール解析手段で解析された結果が前記通知対象者記憶手段に記憶されているかどうか判定を行う通知対象者判定手段と、ユーザの携帯電話等の通知先を記憶する通知先記憶手段と、前記通知先記憶手段に記憶されている通知先を読み出す通知先読出し手段と、前記電子メール受信手段によって受信されたメールが、前記通知対象者判定手段によって通知対象者からのメールであると判断された場合に、前記通知先記憶手段に記憶されている通知先に発呼する発呼手段と、発呼した際にユーザに対して通知する音声記憶する通知音声記憶手段と、前記通知音声記憶手段に記憶されている音声を読み出す通知音声読出し手段とを有することにより、通知して欲しい相手（通知対象者）からの電子メールが受信された場合にのみ、ユーザに対して発呼し、電子メールを受信したことを通知することが可能となるという作用を有する。

(3)

特開平11-289346

3

【0007】以下、本発明の実施の形態について、図1から図4を用いて説明する。

（実施の形態1）図1は、本発明の実施の形態1における端末装置の機能を示す機能ブロック図である。

【0008】1は電子メールを受信する電子メール受信手段、2は前記電子メール受信手段1により受信したメールを解析する電子メール解析手段、3はユーザが通知して欲しい人（通知対象者）からのメールを受信した場合にのみ通知するようにするため、通知対象者を記憶する通知対象者記憶手段、4は前記通知対象者記憶手段3より通知対象者を読み出す通知対象者読出し手段、5は前記電子メール解析手段2で解析された結果が前記通知対象者記憶手段3に記憶されているかどうか判定を行う通知対象者判定手段、6はユーザの携帯電話等の通知先を記憶する通知先記憶手段、7は前記通知先記憶手段6に記憶されている通知先を読み出す通知先読出し手段、8は前記電子メール受信手段1によって受信されたメールが、前記通知対象者判定手段5によって通知対象者からのメールであると判断された場合に、前記通知先記憶手段6に記憶されている通知先に発呼する発呼手段、9は発呼した際にユーザに対して通知する音声を記憶する通知音声記憶手段、10は前記通知音声記憶手段9に記憶されている音声を読み出す通知音声読出し手段である。

【0009】図2は本発明の実施の形態における端末装置のハードウェア構成を示す装置ブロック図である。

【0010】通信デバイス11は電子メール等の通信を可能にするものである。発呼装置12は電話によって外部への発呼を可能にする。リードオンリメモリ13は中央処理装置14によって処理実行されるプログラムが格納されている。ランダムアクセスメモリ15には入力装置から読み込んだデータや、プログラムの実行によって作成されるデータ等が格納される。

【0011】以下、本発明の実施の形態の動作について、発呼にいたる制御手順を示すフローチャートである図3をもとに説明する。

【0012】図3は本発明の実施の形態1における端末装置が発呼するまでの手順を示すフローチャートである。ステップS1では、電子メール受信手段1によって電子メールが受信されたかどうかの判定を行う。受信された場合はステップS2に進むが、受信されなかった場合は受信されるまで待つ。ステップS2では、ステップS1において受信された電子メールを電子メール解析手段2を用いて解析する。ステップS3では、通知対象者読出し手段4を用いて、通知対象者記憶手段3から通知対象者を読み出す。ステップS4では、通知対象者判定手段5により、ステップS1で受信された電子メールがステップS3で読み出された通知対象者からの電子メールであるかどうかの判定を行う。もし通知対象者からのメールであった場合はステップS5に進むが、そうでな

4

い場合は、ステップS1の前に戻り電子メールの受信を待つ。ステップS5では、通知先読出し手段7を用いて通知先記憶手段6から通知先を読み出す。ステップS6では、ステップS5において読み出された通知先に対して発呼を行う。ステップS7では、通知音声記憶手段9内に記憶されている「電子メールを受信しました」等の通知メッセージを、通知音声読出し手段10を用いて読み出す。ステップS8では、ステップS7において読み出された通知メッセージを出力する。

【0013】図4は、本発明の実施の形態における端末装置の動作例を示す図である。端末装置が電子メールを受信し、その電子メールが通知して欲しい相手（通知対象者）からの電子メールであると判断された場合にのみ、図3に対して発呼動作を行い、ユーザに電子メールを受信したことを通知する。

【0014】（実施の形態2）図5は本発明の実施の形態2における端末装置の機能を示す機能ブロック図である。

【0015】1は電子メールを受信する電子メール受信手段、2は前記電子メール受信手段1により受信したメールを解析する電子メール解析手段、3はユーザが通知して欲しい人（通知対象者）からのメールを受信した場合にのみ通知するようにするため、通知対象者を記憶する通知対象者記憶手段、4は前記通知対象者記憶手段3より通知対象者を読み出す通知対象者読出し手段、5は前記電子メール解析手段2で解析された結果が前記通知対象者記憶手段3に記憶されているかどうか判定を行う通知対象者判定手段、6はユーザの携帯電話等の通知先を記憶する通知先記憶手段、7は前記通知先記憶手段6に記憶されている通知先を読み出す通知先読出し手段、8は前記電子メール受信手段1によって受信されたメールが、前記通知対象者判定手段5によって通知対象者からのメールであると判断された場合に、前記通知先記憶手段6に記憶されている通知先に発呼する発呼手段、16は、電子メール解析手段2により解析された電子メール情報を音声に変換し、電子メールの発信先、題名、内容などを読み上げる音声合成手段である。

【0016】本発明の実施の形態2における端末装置のハードウェア構成は実施の形態1と同じであり、説明を省略する。

【0017】以下、本発明の実施の形態2の動作について、発呼にいたる制御手順を示すフローチャートである図6をもとに説明する。

【0018】図6は本発明の実施の形態2における端末装置が発呼するまでの手順を示すフローチャートである。ステップS10では、電子メール受信手段1によって電子メールが受信されたかどうかの判定を行う。受信された場合はステップS11に進むが、受信されなかった場合は受信されるまで待つ。ステップS11では、ステップS10において受信された電子メールを電子メール

(4)

特開平11-289346

5

ル解析手段2を用いて解析する。ステップS12では、通知対象者読出し手段4を用いて、通知対象者記憶手段3から通知対象者を読み出す。ステップS13では、通知対象者判定手段5により、ステップS10で受信された電子メールがステップS12で読み出された通知対象者からの電子メールであるかどうかの判定を行う。もし通知対象者からのメールであった場合はステップS14に進むが、そうでない場合は、ステップS10の前に戻り電子メールの受信を待つ。ステップS14では、通知先読出し手段7を用いて通知先記憶手段6から通知先を読み出す。ステップS15では、ステップS14において読み出された通知先に対して発呼を行う。ステップS16では、電子メール解析手段2により解析された電子メール情報を音声合成手段により音声化し、ステップS17においてその電子メールの合成された音声を出力する。

【0019】

【発明の効果】以上のように本発明によれば、端末装置において、通知して欲しい相手（通知対象者）からの電子メールが受信された場合にのみ、ユーザに対して通知

することが可能となるという、有利な効果が得られる。【0020】さらに、音声合成により通知して欲しいユーザからの電子メールの内容のみを出先で確認することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施の形態1における端末装置の機能を示す機能ブロック図

\*

6

\*【図2】本発明の実施の形態における端末装置のハードウェア構成を示す装置ブロック図

【図3】本発明の実施の形態1における端末装置が発呼するまでの手順を示すフローチャート

【図4】本発明の実施の形態における端末装置の動作例を示す図

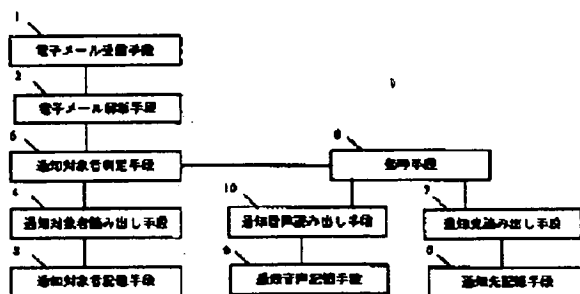
【図5】本発明の実施の形態2における端末装置の機能を示す機能ブロック図

【図6】本発明の実施の形態2における端末装置が発呼するまでの手順を示すフローチャート

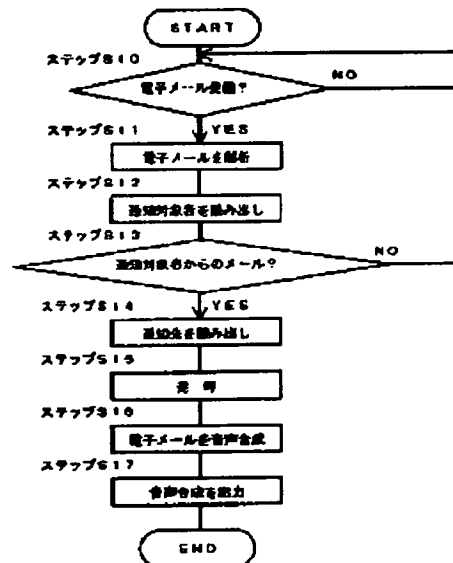
【符号の説明】

- 1 電子メール受信手段
- 2 電子メール解析手段
- 3 通知対象者記憶手段
- 4 通知対象者読出し手段
- 5 通知対象者判定手段
- 6 通知先記憶手段
- 7 通知先読出し手段
- 8 発呼手段
- 9 通知音声記憶手段
- 10 通知音声読出し手段
- 11 通信デバイス
- 12 発呼装置
- 13 リードオンリメモリ
- 14 中央処理装置
- 15 ランダムアクセスメモリ
- 16 音声合成手段

【図1】



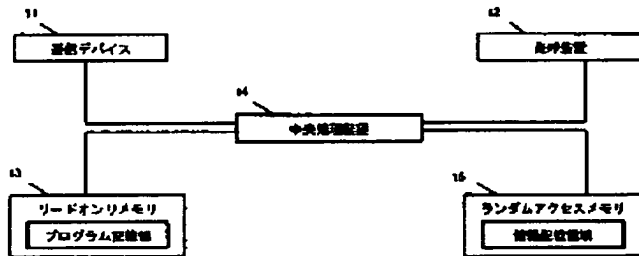
【図6】



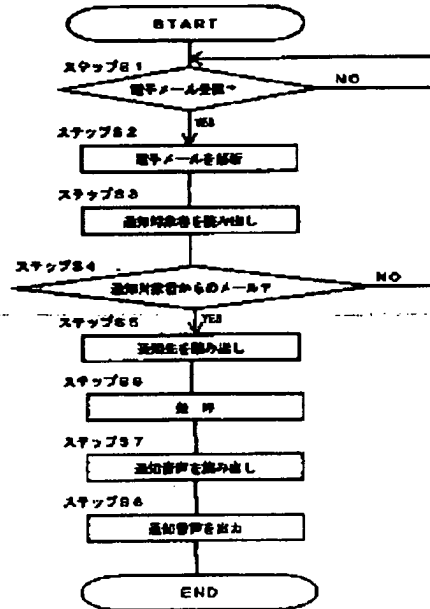
(5)

特開平11-289346

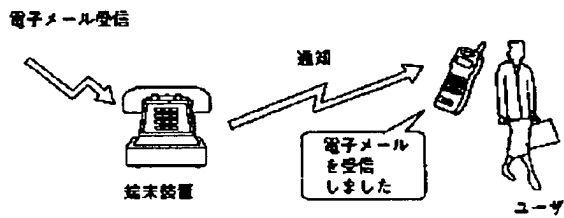
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

